

ビッグデータ活用の時代

尹碩ジュン

健康保険審査評価院 審査評価研究所長

ビッグデータ時代が渡来した。ビッグデータ活用が最も大事な個人及び組織の資産でとして評価を受ける時代である。

しかしこのように周辺与件が成熟するのにあまり長い時間が必要ではなかった。筆者がビッグデータを活用して博士論文を作成した約15年前の記憶が浮かぶ。その頃、国民健康保険診療利用資料を活用して論文を作成しようとしたが公式の接近方法がほとんどなかった。資料を管理した職員と親しくなり、関係者の助力を得るなど非公式なあらゆる方法を動員してはじめて資料への接近が可能であった。

問題はそれだけではない。難しくて旧弊なビッグデータを分析するのに周辺に助力を求めても経験者はほとんどいなかったか。

その頃は千辛万苦の末に手に入れたビッグデータを分析して表と図を作り上げるだけで立派な論文として評価を受けた時代だった。最近試みられている資料間結合などによる多次元分析などは夢にも見られなかった。ビッグデータに近付いて情報を得ること自体が研究者の大きな能力として評価された時代であった。

今はどうか。遠隔で健康保険審査評価院のビッグデータを外部で送って研究者が自分の研究室で快適にデータを分析できる時代が来たではないか。まさに「桑田碧海*」

このような状況に至るまで筆者の経験からもわずか10余年の歳月しか要しなかった。今後の10年で今よりさらに大きな変化を経験することになるだろう。

では私たちは何を準備しなければならないのか。材料の開放に加え、より能動的に外部とのコミュニケーションを実行すべきである。過去の慣行に留まっていたは、個人はもちろん組織も困難を経験することになるだろう。

私たちはすべての作業とそれに伴うビッグデータは生データも含めてすべて公開されると仮定して、それぞれの業務を行うことが適応力を高める方法である。

もちろん、こうなれば健康保険審査評価院をはじめとして関連分野の多くの業務を遂



行する組織は、短期間に難局に直面するだろう。

しかし、むしろ積極的な開放の精神こそ不必要な葛藤を事前に遮断し、より成熟したコミュニケーションの時代を開くことになるだろう。

これが筆者の描くビッグデータ活用時代の基本構想である。

今回の「HIRA政策現況」にはビッグデータ活用に関連する四編の原稿を載せた。

まず、二元席延世大学校工科大学教授は‘保健診療情報活性化のための公共データ開発とビッグデータ活用’という主題でビッグデータの現況と活用方案に対して説明し、これから保健診療情報でビッグデータ活性化方案を提言いただいた。

ジャングソックエルスビア会長、LEE RIVAS LEXISNEXIS RISK SOLUTIONS CEOは‘技術を活用した流れの転換’を通じてアメリカ保健診療体系でビッグデータと先進化分析技術の活用を紹介していただいた。

ファングウィドング診療情報分析室室長は‘保健医療分野のビッグデータ活性化と課題’を通じて我が国のビッグデータ現況と健康保険審査評価院でのビッグデータ公開方案を紹介した。

最後にバックテシンボブムジワンダン嘱託弁護士は‘保健診療情報公開と個人情報保護’を通じて情報公開と個人情報保護とのジレンマをよく見てこれを解決するための今後の政策提言を提示した。

*桑畑が青い海に変わる。世の中の変化の激しいことの中国の比喩。